

八十八夜とお茶との関係とは

ホームガス課 野畑 貴史

♪夏も近づく八十八夜 野にも山にも若葉が茂る あれに見えるは茶摘みじゃないか あかねだすきにすげの笠〜♪

この歌は皆さんご存知の茶摘みですが、この歌に出てくる八十八夜とはどのような意味があるのでしょうか。お茶との関係や2020年の八十八夜はいつなのか調べていきたいと思います。

まずはじめに八十八夜の意味とは？

八十八夜は雑節（ざっせつ）のひとつです。雑節とは二十四節気や五節句のほかに季節の移り変わりをよりの確につかむために設けられた特別な暦日で、二十四節気の立春から88日目を八十八夜といいます。農家では八十八夜を過ぎれば晩霜も終わり気候が安定するそこから種まきや茶摘みなど農作業開始の基準としています。

なぜ立春から88日曜日をわざわざ「夜」というのか？

日本では明治5年に改暦が行われました。それまでは旧暦では月の満ち欠けを基準にした暦でしたが改暦によって現在の太陽を基準とした太陽暦という暦になりました。「八十八夜」は太陽暦になる前、月の満ち欠けを基準に日にちを数えていた時代から使われており、そのころは「夜」を基準に考えられていた為「88日目」＝「八十八夜」になったといわれています。

2020年の八十八夜はいつ？

2020年の立春は2月4日で、それから88日目ということなので5月1日です。

八十八夜とお茶との関係は？

「茶摘み」という歌の歌詞には「あれに見えるは茶摘みじゃないか」という部分があり、この歌が八十八夜にお茶というイメージを定着させたと考えられています。実際には茶摘みの時期は産地やその年の気候で異なります。

お茶の葉は冬の間に茶葉を収穫して作ったお茶を「新茶」「一番茶」といい、その後摘まれる茶葉より栄養価が高いといわれています。そのため新茶を飲むと病気になるいとか、八十八夜に摘まれたお茶を飲むと長生きできると考えられています。新茶、一番茶が4月下旬から5月中旬にかけて摘まれます。ちょうど八十八夜のころですね。二番茶は6月上旬から7月上旬、三番茶は7月末から8月上旬です。産地によっては四番茶、秋冬茶などもあります。

毎年新茶の季節には茶畑で茶摘み姿をみることができます。二番茶、三番茶などは機械ですることが多くても、新茶、一番茶は現在も人の手でいねいに摘まれるそうです。新茶と一番茶は呼び方が違うだけで同じ意味です。

産地やメーカーによっては低温保存で一年中楽しめるようにしていますが、この時期にしか楽しめない旬のものとして、ゆっくりお茶を楽しむ時間を作ってみるのもいいですね。私も和菓子と一緒に是非美味しいお茶を味わいたいです。



社員紹介

水之浦 英樹

みなさま初めまして。この度4月1日付よりグループ会社であります上野ガスより出向して参りました水之浦 英樹（みずのうら ひでき）と申します。名字は変わっていますが元々は九州の鹿児島県であります。生まれは伊賀上野ですが、趣味はゴルフ、ドライブ、食べ歩きです。ガス関係の仕事は25年間やっておりまして。ガスの事なら何でもご相談に乗りますと言いたいのですが、アポロ興産では外販課という燃料関係の仕事もございます。一から外販課の皆様にご案内しながら覚えてまいります。この様な危険物を取り扱う仕事としては、お客様に「安心・安全」にご使用されることが使命と考え保安の確保が第一と思っております。世間では少子高齢化・人口減少と言っておりますが、こんな時代だからこそ皆様に接点強化に努め、地元企業として親しみの湧く会社になりたいと思っています。今一度初心にかえり粉骨砕身の気持ちで頑張ります。どうかご指導の程宜しくお願い申し上げます。そして皆様のお顔を見ることを楽しみにしております。



アポロ新聞

時の記念日

外販課 山島 秀章

「時は金なり」とよくいわれますが、時間は誰にでも平等に与えられた唯一のもの。有効に使うか、無駄に使うかはその人次第ですが、二度と取り戻せない大切なものです。

6月10日は「時の記念日」。今一度、時間の大切さについて、思いをはせてみませんか？

■時の記念日とは？



「時の記念日」は、「時間をきちんと守り、欧米並みに生活の改善・合理化を図ろう」と呼びかけたのが趣旨で、1920(大正9)年に制定されました。

世界中の人から「日本人ほど時間に正確な国民はいない」といわれ、多くの人々が時間を守ることを最低限のマナーとして認識しています。この時代の日本人が時間にルーズだったとは思えませんが、時間を効率的に使って産業の発展と欧米並みの近代化を図ろうという目的があったのかもしれない。

「日本書紀」に「天智天皇が漏刻（ろうこく）を置いて初めて時を打った」という記述があります。漏刻とは水の流れ方が一定であることを利用した水時計です。これが日本で時計が鐘を鳴らして時を知らせた初めての記録とされています。天智天皇10年4月25日、西暦では671年6月10日のことで、これにちなみ6月10日が時の記念日となりました。

■日本独自の時間

古来日本では1日を12等分して子・丑・寅・卯～の十二支を当てはめていました。昼夜をそれぞれ6等分し、1日12等分で時間を把握していたので、季節によって昼夜の長さが変わり、時間の長さは一定ではありませんでした。

しかし、昔の人は日の出とともに起きて1日が始まり、日の入りとともに1日の仕事を終えたので、その方が便利だったのでしょう。

この時代の名残として残っていることばもあります。

正午（しょうご）：「午（うま）」の刻は太陽が南中にくる頃だったので、昼の12時を表します。

お八つ（おやつ）：午後のティータイムは午後3時。「未（ひつじ）」の刻がちょうど八つ時で、午後3時頃。

丑三つ時（うしみつどき）：怪談で「草木も眠る丑三つ時！」とおどろおどろしく語られる丑三つ時とは深夜2時から2時半頃。

■時間の国際化

各国でバラバラに使われていた「時間」でしたが、19世紀になり近代化が進み、国際交流が進むと世界中で時刻を統一する必要性が生じました。そこで決められたのが世界時間の基準となる経線（本初子午線）で、1884年、イギリスのグリニッジ天文台が経度0の基準地となりました。経度が15度ずれるごとに時差は1時間とされ、これを基に各国は自国の標準時を決めました。

1886年、日本では15の倍数の経線は統計135度と150度の二つありますが、150度では南鳥島の近くになり、あまりに東寄りなので、135度にある市町村の中から兵庫県明石市に決定されました。

世界中の人から、「日本人ほど時間に正確な国民はいない」と言われ、大多数の人々が『時間を守ること』を最低限のマナーとして認識している我が国です。

保育園や幼稚園で時の記念日に先生方が、「時間の大切さ」についてお話をしたという話もよく聞きます。

時間を考えるきっかけになる役割としても、時の記念日が浸透してきているように感じます。